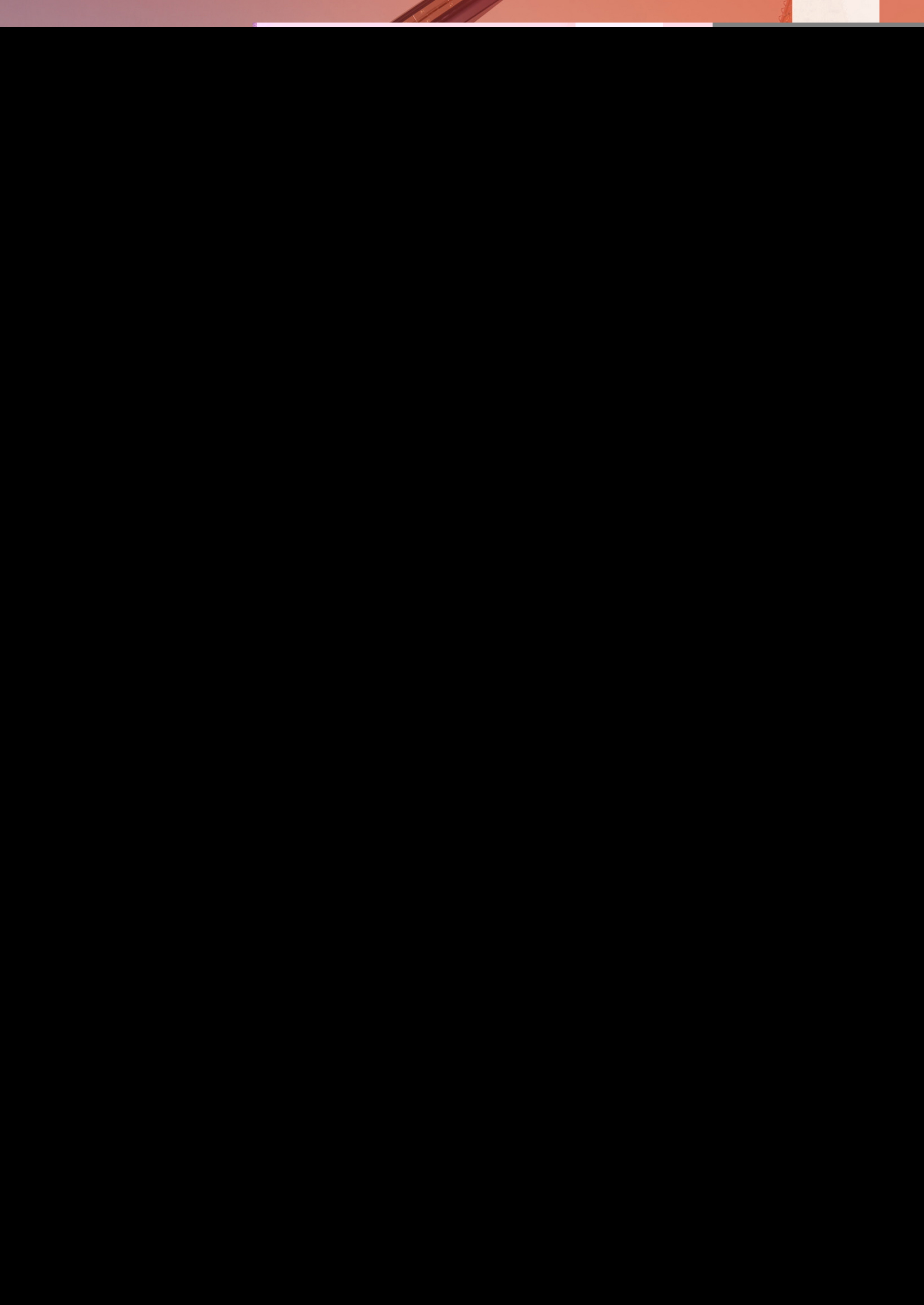




ロシア音楽の旅の最終回は、浦山純子氏のリサイタルでお届けします。五人組の時代に連なるチャイコフスキーと、リムスキーコルサコフの弟子アレンスキーを共に師とするスクリャービン、ラフマニノフの代表曲でお届けします。器楽の一分野として、5人組の時代から偉大な作曲家達により数々の名作に彩られてきたピアノ音楽は、スクリャービン、ラフマニノフの双璧の才能の登場で、そのスケール、質的成熟において、独立した代表的器楽分野として確立されます。本日は幕開けのチャイコフスキー(プレトニョフ編)の「胡桃割り人形」に続き、スケール・質共にピアノ音楽の精髓を極めた両者による、それぞれの代表作を心ゆくまで味わってください。

＜ピアニスト 浦山純子 音楽の友社評＞

“…実に個性的なピアニストだ。ダイナミックで起伏も大きく、ピアノを鳴らすということにかけても秀でている。音色にしても多彩なパレットを有しており、打鍵もしっかりしているから作り上げる音像の輪郭も明確、歌心溢れ…”「音楽の友」誌

Profile

浦山 純子 (ピアノ)

桐朋学園大学音楽学部ピアノ科卒業後、ポーランド国立ワルシャワショパン音楽院に留学。1995年ラジヴィウ国際ピアノコンクール優勝、及び最優秀ショパン賞(ポーランド)、98年ボリーノ国際ピアノコンクール最高位(イタリア)を始めとする数々の賞を受賞。

96年よりロンドンを拠点とし、名門ウイグモアホールにてデビュー。ヨーロッパ各国でソロリサイタル、コンチェルトから室内楽に至るまで幅広く活動し、2002年にはウラディミール・アシュケナージ指揮フィルハーモニア管弦楽団とグリーグ：ピアノ協奏曲を共演し成功を収め、再びフィルハーモニア管弦楽団に招かれて同年チチェスター音楽祭にて演奏。

05年に帰国、銀座・王子ホールでデビュー後、多彩な企画で演奏活動を展開し、スタインウェイ・ジャパン(株)の“Young Virtuoso Series”のアーティストとしても全国各地でコンサートを行ったほか、国内外で教育・福祉関係のためのチャリティ活動にも力を入れている。

09年よりスタートさせたリサイタルシリーズ「心の旅への誘(いざな)い」は、「奥の細道」から着想された柏木俊夫作曲：『芭蕉の奥の細道による気紛れなパラフレーズ』を取り上げる独創的な企画が注目を集め、リサイタルと連動して発表した本作品の全曲録音CD〈VOYAGE ヴォヤージュ〉は、その文化・芸術的価値を高く評価されて文化庁芸術祭に選出された。

14年からは自身の代名詞ともいえる作曲家、ショパンとラフマニノフの生涯を追う全4回のリサイタルシリーズ「ショパン & ラフマニノフの世界」を開催。第1回に連動して〈CONCERTOS コンチェルト〉(ショパン：ピアノ協奏曲第1番 & ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番、山下一史指揮／仙台フィルハーモニー管弦楽団)をリリースするなど、華々しくコンセプト的な企画が好評を博した。

18年からは、前半はピアノソロ、後半は毎回異なるゲストを迎えた室内楽という、多彩かつ豪華なリサイタルシリーズ「With Friends」をスタート。

CDはこれまでに、03年〈Piano Recital ピアノリサイタル〉、05年〈Fantasie ファンタジー〉、07年〈Soirée ソワレ〉(以上イギリス・シンフォニカレコード)、12年〈VOYAGE ヴォヤージュ〉、14年〈CONCERTOS コンチェルト〉、17年〈Serce セルツェ〉(以上ソニーミュージック/ミューズ)をリリースしている。浅野繁、奥村洋子、安川加壽子、アンジェイ・ステファンスキ、スラミタ・アロノフスキ各氏に師事。スタインウェイ・アーティスト。

【 オフィシャル・ウェブサイト 】

<http://www.junkourayama.com/>

【 イベント案内ページ 】

<http://urx.red/w2fB>

Ticket

〔 現金振込 〕

<http://urx.red/XGPM>



〔 Paypal 決済 〕

<http://urx.red/VC7d>



〔 クレジットカード申込 〕

<http://urx.red/hBw3>



〔メール〕 info@viagalleria.or.jp 〔電話〕 045-961-0813 岡田

〔ホームページ〕 <http://viagalleria.or.jp/>